



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.70



3月

発行 / 社団法人国際観光施設協会
総務委員会
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋
2-8-5 多幸ビル九段2階
TEL03-3263-4844
FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp
URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2009年3月1日

新年度に展望する観光を巡る国策の動向

副会長 涌井史郎

新年度を念頭に、観光を取り巻く状況を展望すると、時代の趨勢の激しい変化に感慨深いものがある。どうやら世界は、ただ単なる経済情勢の悪化というより、世界的大転換が図られようとしているように思えてならない。それが意図的であるのか、はたまた普通の人々の潜在的叡智がそうさせているのかは不明ではあるが、いずれにせよ大きなパラダイムの変化が起きようとしている。紙面の関係で多くを語ることはできないが、一言で言えば、産業革命以来の石油エネルギー依存の富の蓄積や拡大が終焉を告げ、環境に配慮し、人類も生物社会の一員であることを再確認し、生態系を重視した持続的世界への模索が世界的規模で始まったと見てよいと思う。つまり「環境革命」の始動であろう。

観光もまたそうした方向と無縁ではない。いたずらに工業生産のみを追いかけ、輸出で経済規模を拡大するというこれまでの枠組みとは違った経済の方向が求められている。これも一言で言えば、環境負荷が少ない新たな新材料とエネルギーを基にした新たな生産の形態が、そして「幸福の追求」に根ざした産業が台頭する方向であろう。観光もまたそうした重要な分野に位置づけられ、それを充足する供給の手法と楽しみメニューが求められ、その成功が内需を拡大し、新しい経済の拡大に繋がることになる。

つまりグローバル化と共に、ローカリゼーション、地域の自然や景観そして文化が色濃く投影された地域作りやメニューが、これまで以上に観光を支える基盤となることは言うまでもない。

こうした方向に国も大きく舵をきり始めた。昨年の「観光庁」の新設は言うまでもないが、それに相前後

してさまざまな法律や施策の体系が打ち出されている。その基本となる計画が昨年7月に「国土形成計画(全国)」が少子高齢化や産業の方向の転換、自然環境重視の方策などを念頭に閣議決定を見、国土交通省、都市・地域整備局の公園緑地課が「公園・景観課」に改編され、これまでの景観法を補完する「歴史・まちづくり法」が制定、加えて「生物多様性国家戦略」と「国土形成計画」の双方にまたがる計画として「全国エコロジカル・ネットワーク」の検討が、小生を委員長として開始されている。

つまり世界規模の環境への取り組みを我国からも強く発信し、その意味からも、我国の世界に発信する方向と矛盾が無く、且つ国民の未来を支えるに相応しい、自然を資本財として重視し、地方分権を進め、その地方の固有性や多様性を重視した新たな国土像を描き出そうとする方向である。

観光をただ単に誘客や行楽産業としてのみ捉えようとする方向は終わった。その地域や地方の自然と交感して久しい伝統や文化、それを投影した景観や風景を再生し、そこに心の安らぎや、生涯教育への満足、そして何よりも「感性価値」という新たな製品や商品を生み出す創造的な基盤を、観光行動や消費と共に地域中心に生み出そうとする新しい時代がそこに展望される。

当協会は、観光分野に於ける唯一の技術的観点を持つ会員の集団であり、そうした時代をリードできる知見の集積と議論そして発信力を備えた公益法人である。この特性をさらに強化して、益々我国の未来を担う多様な主体の期待に応える力を会員共々に共有したいものである。

雛の節句によせて

事業委員長 立石博巳

年も明けて早や3月弥生、桃の花と白酒のお節句がにぎやかにやってきました。

新年の賀詞交歓会は約200名の会員が集まり、今年の輝かしいスタートとなりました。大変きびしい話題も多い最中ですが今年も当協会は前進してまいります。今年の総会は6月15日国の重要文化財大隈記念講堂・小講堂で開催されます。ゴシック様式の建物に半円アーチのロマネスク様式を加えた素晴らしい建物で、会員である佐藤総合さんの手でよみがえりました。事業委員会もこの総会を始め研修旅行、見学会、忘年交歓会等さまざまな企画を数多く立ちあげ、会員皆様を始め一般の市民の方々もお呼びできるような他の委員会部会とも協力し合い委員一同努力いたしますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。



建築部会の活動報告と予定

建築部会長 森 一郎

多くの会員の皆さんが協会活動を通じて人間関係の構築や業務内容、そして技術の向上にお役に立てるよう、新年度から活動内容を変更します。建築部会を4つのグループにわけて活動します。施設見学、セミナー企画、企業見学、最新情報、それぞれにリーダー、サブリーダーを設け打ち合わせ場所も持ち回りで各社の会議室で行う予定です。会員各社ならではの情報発信を期待しております。見学会は会費を時節柄できるだけ安価にして、観光空間見学会は造園関係会員の皆さんとも協同して、外部空間・植栽・建築を一体とみる視点で、年4回程度を行う予定です。

設備部会の活動報告とこれからの予定

設備部会長 横山 豊

設備部会前年度の活動は、幹事会による環境問題勉強会や設備部会ワーキンググループ(WG)を作り、立上げ総会を開催しました。WGは旅館・ホテルの設備保全マニュアルを作成するグループと環境問題を研究する2グループです。引き続き21年度にWGの活動を行います。WGには設備部会全会員の参加を義務付け、各WGは2ヵ月毎に開催し作業と交流活動を行います。又2WG合同の全体会議を年1回開催します。設備部会幹事会は2ヵ月毎に開催し、WGの進捗を確認し情報交換を行います。秋には施設見学会又は講演会等のイベントを計画します。ホテルス行事に対しては展示表示資料の作成の協力及び相談コーナー設置時の相談員の参加協力を行います。

平成21年度も皆さんのための企画を

インテリア部会長 佐藤英嗣

21年度も、インテリア交流部会は会員の交流を基本に据え、最新の施設・情報等を共有することにより、協会の発展及び所属会員の知識の向上とコミュニケーションに寄与すべく活動方針を定めました。

20年度は、セミナー2件開催(講師:村上秋穂氏、種田陽平氏)、企業見学会(山武テクノセンター)、新情報発信研究会(講師;三橋美穂氏)の4企画を行いました。

インテリア部会所属会員は、企画別グループの何れかに所属し、グループ協議で情報・知識を集約し、目的に沿った企画を立案・実行しています。

各企画は、協会だより又は協会会員へ直接連絡を行っています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

新入会員紹介

【個人】江中 伸広

〒152-0031 目黒区中根 1-18-11

TEL03-3725-1488

賀詞交歓会 報告

1月13日ホテルメトロポリタン・エドモントにおいて賀詞交歓会を開催、193名の会員が新年を寿ぎ相互の交流を深めあいました。

年頭にあたり、中山副会長より「世界に誇れる日本の技術をブランド化して、イメージアップを図り世の中に発信すべき」、涌井副会長より「様々な制度改革によって到来してきた環境革命と呼ぶべき時代への準備の必要性」についての挨拶がありました。

事務局からのお知らせ

観光行政に関心をもちましょう

観光庁では昨年10月の発足に伴いホームページに掲載された新着情報等をはじめ、観光行政に関する情報について希望者に観光庁メールマガジンを配信しています。下記ホームページより簡単に登録できますのでご利用ください。

観光庁のURLは<http://www.mlit.go.jp/kankocho>

交流部会第93回「ゴルフ会」報告

昨年11月12日に秋のゴルフ会が、春と同じ埼玉の「嵐山カントリークラブ」にて開催されました。当日の空模様はスタート直後は怪しかったものの、だんだん絶好のゴルフ日和となり、春の雨の中での大会のリベンジがスコアは別として、叶ったようでした。参加者は9組35名と目標の10組には若干足りませんでした。初参加も4名エントリーをいただきパーティーも和気藹々と盛り上がり、交流の深まった大変意義のある会であったと思います。

【結果】	優勝	何 軍(大河通商)	72.0	初
	準優勝	寺野 仁(山武ビルシステム)	74.0	
	3位&ニア優勝	宮本三千夫(竹中工務店)	74.2	
	B G	成田 洋(NRTシステム)	87	

次の会場は千葉県に移し、5月13日(水)に市原の「立野クラシックGC」で行います。前回出られなかった方は是非参加いただけますよう宜しくお願いします。

♥編集後記♥

公益法人に関する新しい法律が昨年12月1日に施行されました。新公益法人になるための最も大きなポイントは、いかにして公益目的事業の比率を50%以上確保するかにあります。当協会事業内容は大半が公益事業と思いますが、安定した形で定期的実施できる事業をもう少し増やす必要があるでしょう。新しい事業に対しては全員で協力し、取り組んでまいりたいと思います。

Y.K